

高砂香料工業株式会社(4914)


2009年3月期 決算説明会

TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION (TSE4914)

Financial Highlight for the Fiscal Year ending March 31, 2009 (Consolidated)

2009年5月18日

ご説明項目

- 
- 2009年3月期サマリー
 - 2010年3月期通期業績予想
 - 中期経営計画の目標

※このプレゼンテーション資料の金額は四捨五入で表示しています。

2009年3月期サマリー

(1) 連結業績

(億円) Hundred million yen	08/3	09/3	前期比 Change		09/3 3Q時点 業績予想 (02/12)	予想比 Change	
			金額 Amount	%		金額 Amount	%
売上高 Net sales	1,242	1,240	▲2	▲0.2	1,220	+20	1.6%
売上総利益 Gross profit	370	350	▲20	▲5.4	-	-	-
営業利益 Operating income	72	58	▲14	▲20.2	50	+8	+16%
経常利益 Ordinary income	73	57	▲16	▲21.6	48	+9	+19%
当期純利益 Net income	52	35	▲17	▲32.5	22	+13	+59%

(2) ハイライト〈売上高、売上総利益〉

(億円) Hundred million yen	08/3	09/3	前期比 Change	
			金額 Amount	%
売上高 Net sales	1,242	1,240	▲2	▲0.2
売上原価 Cost of sales	872	890	+18	
売上総利益 Gross profit	370	350	▲20	▲5.4
売上高総利益 (%) Ratio of gross profit on sales	29.8%	28.2%	▲1.6%	-

売上高

- 売上高は前期比で横ばい。為替のマイナス影響(約▲40億円)を除けば実質3%の増収

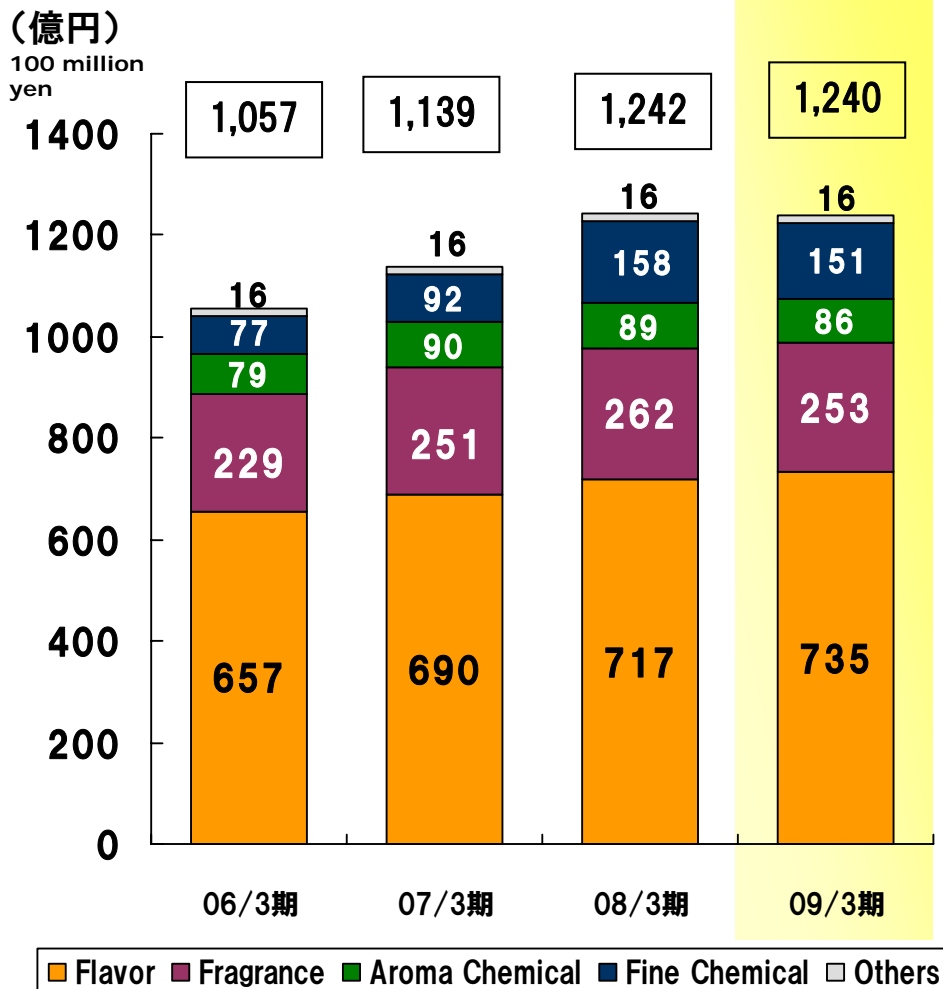
US\$ 前期@117.8→当期@103.5
Euro 前期@161.2→当期@152.4

売上総利益の低下要因

- 期の後半も、高止まりしている香料原料の影響を受け、エネルギー価格高騰と併せて年間通して利益率低下の要因となった。
- 一部の在庫原料の低価評価損計上（通常年度より約10億円以上増加）。
- 海外などで人件費増の影響もあり。

(3) 事業別売上高

◆全体的に香料事業は世界経済不況と円高の影響を受けたものの、アジア地域等で堅調に推移



フレーバー 735億円 (対前期+18億円)

- ・ダンカフェ マレーシアの新規連結, 及び中国 東南アジアの売上げが増収に寄与。
- ・国内では一部飲料向け香料が伸び悩んだが、素材販売など幅広いで商材で売上げを伸ばした。

フレグランス 253億円 (対前期 ▲9億円)

- ・為替マイナス要因(≒▲20億円)除けば、実質増収。
- ・海外での4Q以降の減速が影響

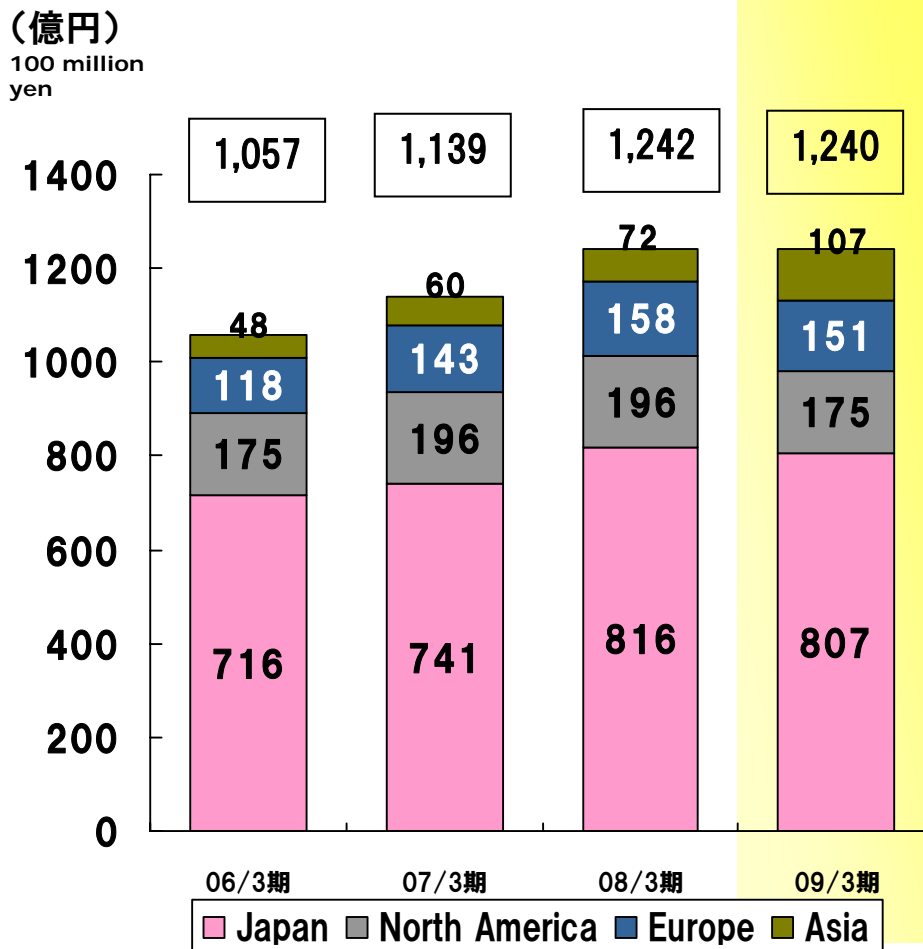
アロマケミカル 86億円 (対前期▲3億円)

- ・為替要因は輸出分、海外拠点とも為替が影響。
- ・天然品の相場下落の影響受け価格環境も厳しい。

ファインケミカル 151億円 (対前期▲7億円)

- ・計画に折込済みの一部の大口品分の減少を、抗うつ剤中間体の売上増加などでカバー。

(4) 地域別売上高



日本 807億円 (対前期比▲9億円)

- ・ファインケミカル事業の大口品の減収の影響。
- ・フレーバー及びアロマケミカル輸出でも消費市場低迷や円高の影響。

北米 175億円 (対前期比▲20億円)

- ・円高の影響が大きく(約▲20億円以上)減収だが、現地通貨ベースでは前期並。
- ・秋以降に売れ行き急速に鈍化。

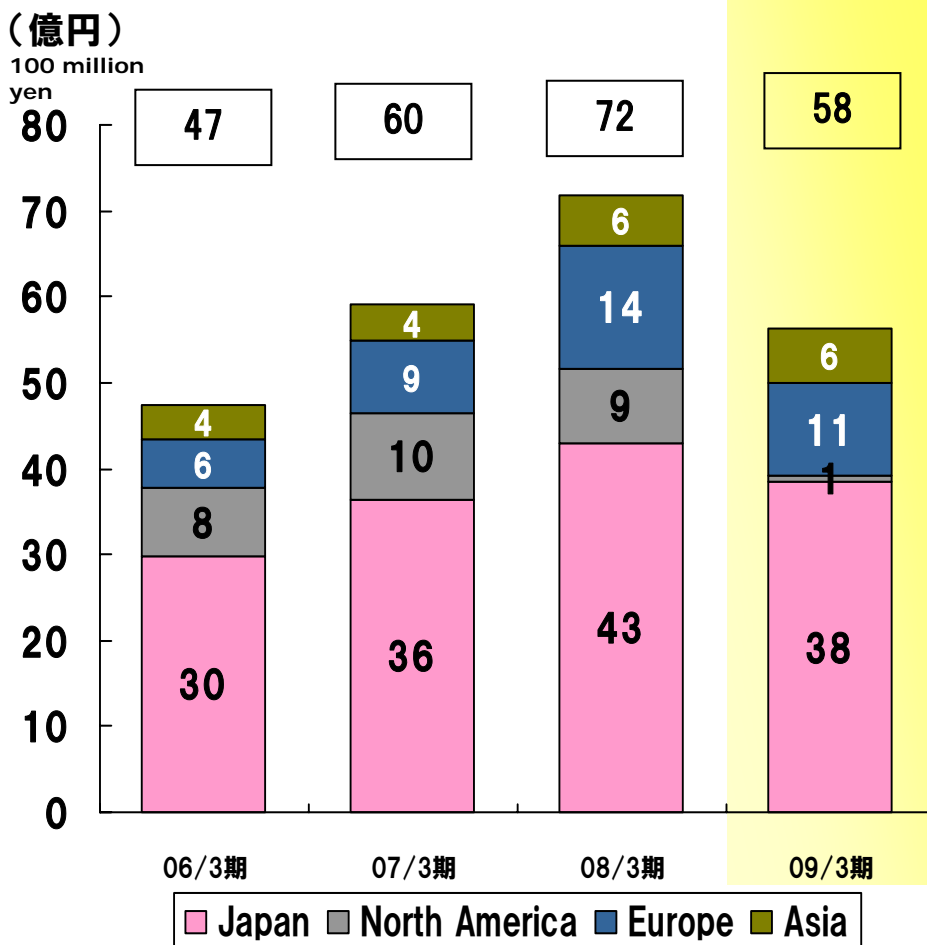
欧州 151億円 (対前期比▲7億円)

- ・円高要因約▲10億円。現地通貨ベースで前期並。
- ・フレーバーはロシア東欧向けが引き続き順調だがフレグランスが第4四半期以降減速。

アジア 107億円 (対前期比+35億円)

- ・中国,東南アジアではフレーバー・フレグランスともに20~30%以上の成長。
- ・ダンカフェ マレーシアの新規連結がプラス要因。
- ・全体としては投資効果が市況の減速感を上回る。

(5) 地域別営業利益



日本 38億円 (対前期 ▲5億円)

フレグランス等での原料価格の高騰と売上減少に伴う減益要因が大きい。

北米 1億円 (対前期 ▲8億円)

製造・研究での人件費投資による経費増加のほか、燃料エネルギー費の高騰など。

欧州 11億円 (対前期 ▲3億円)

フレグランスでのR&D投資(人件費など)や、市場調査費用の増加、アロマケミカルの価格競争激化など。

アジア 6億円 (対前期 +1億円)

設備稼働率が高いが、原料価格高騰と人件費増加による利益率の低下で利益は微増に留まる。

2010年3月期通期業績予想

(1) 業績 通期見通し

(億円) Hundred million yen	09/3 実績 Result	10/3 見通し Forecast	前期比 Change
売上高 Net sales	1,240	1,170	▲70
売上総利益 Gross profit	350	340	▲10
営業利益 Operating profit	58	52	▲6
経常利益 Ordinary income	57	50	▲7
当期純利益 Net income	35	27	▲8

売上高

【前期比】

為替で約50億円弱のマイナスを予想
為替要因を除けばほぼ横ばい

【為替の前提】

US\$

09/3期 @103.5→10/3期 @95

Euro

09/3期 @152.4→10/3期 @120

利益

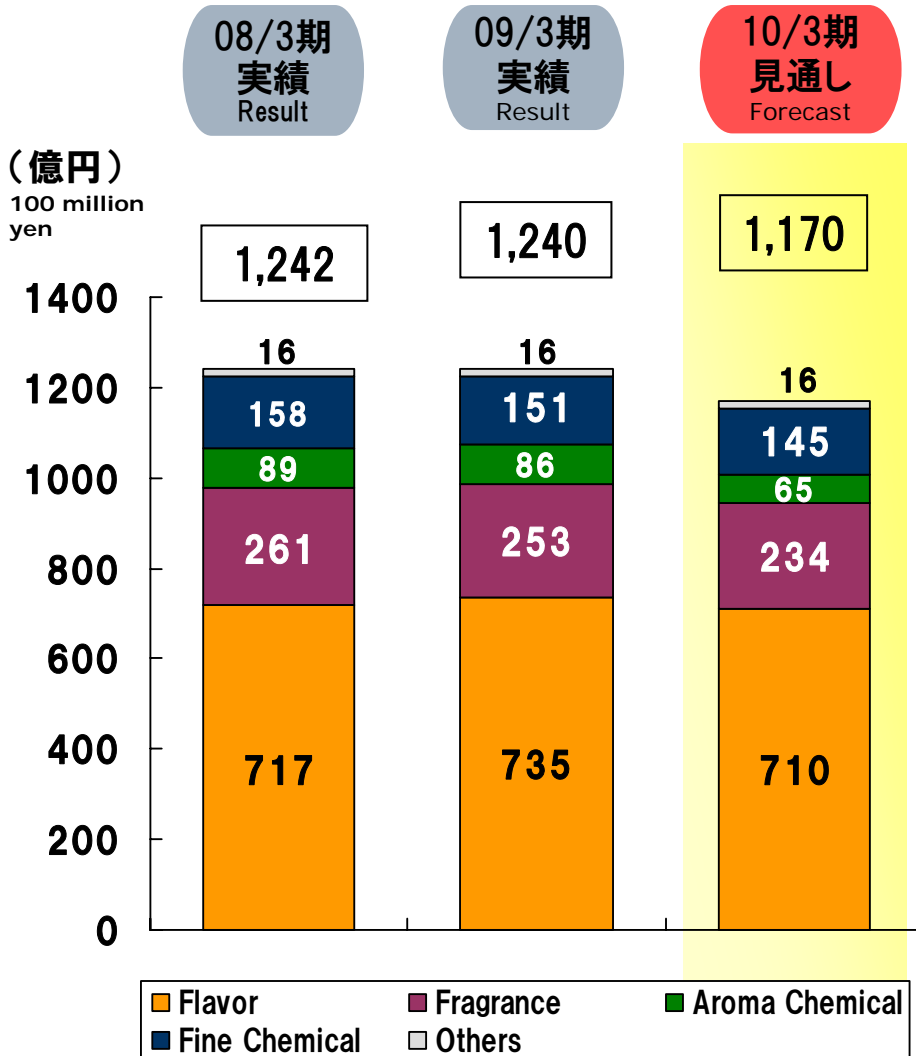
【減益要因】

全体的な売上減少と、特に北米などで収益性が厳しくなっている。

前期処理済み低価損の負担は軽減

原料・エネルギー価格も少し落ち着く

(2) 事業別売上高 見通し



フレーバー 710億円 (対前期▲25億円)

フレグランス 234億円 (対前期▲19億円)

アロマケミカル 65億円 (対前期▲21億円)

ファインケミカル 145億円 (対前期▲6億円)

フレーバー: (為替要因▲18億円)

中国展開や、東南アジアを中心に伸ばすが、欧米は厳しい見通し。

フレグランス:

(為替要因▲25億円を除くと増収)

北米ウェッセル事業買収の加算がプラス要因であるが、欧米市場は厳しい見通し。

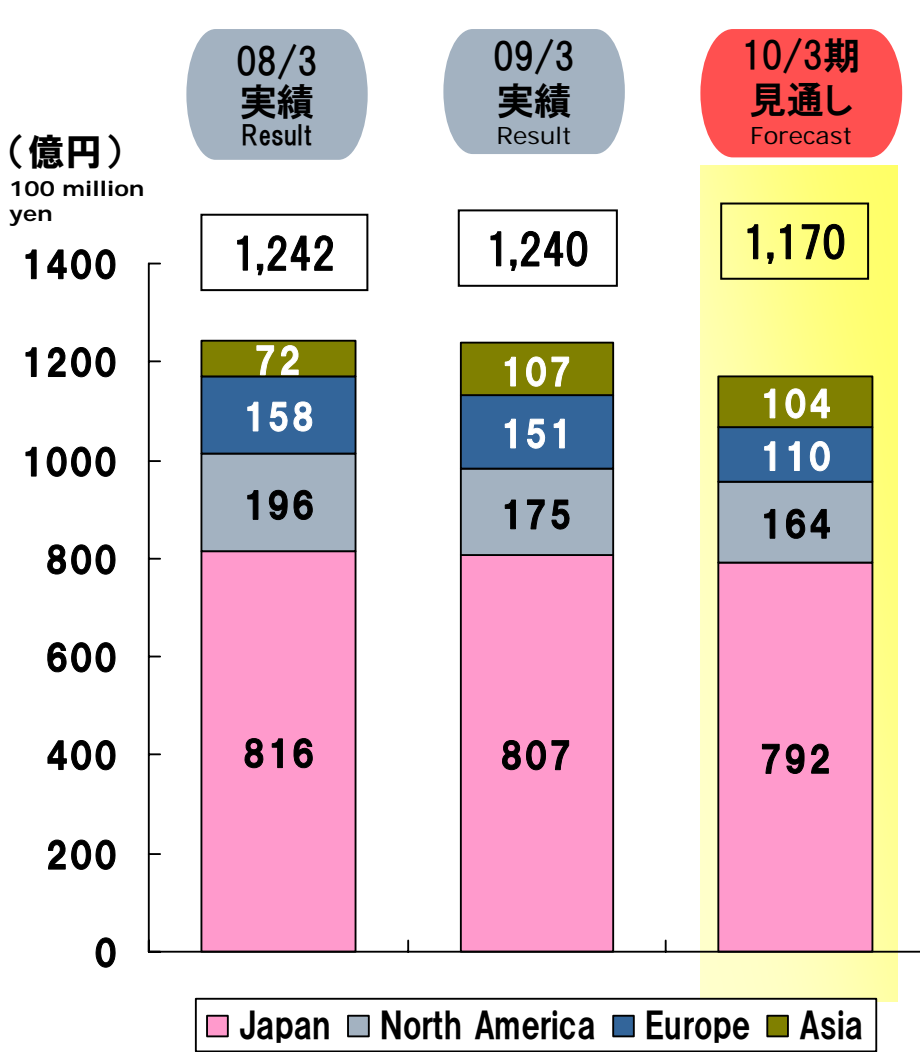
アロマケミカル:

グローバル市場での需要低迷が懸念され、為替要因による競争力低下を考慮して減収予想。

ファインケミカル:

景気減速の影響も少なく触媒関連も伸ばして行くが、製薬側の特許期限満了などが減収要因。

(3) 地域別売上高 見通し



日本	792億円 (対前期 ▲15億円)
北米	164億円 (対前期▲11億円)
欧州	110億円 (対前期▲41億円)
アジア	104億円 (対前期▲3億円)

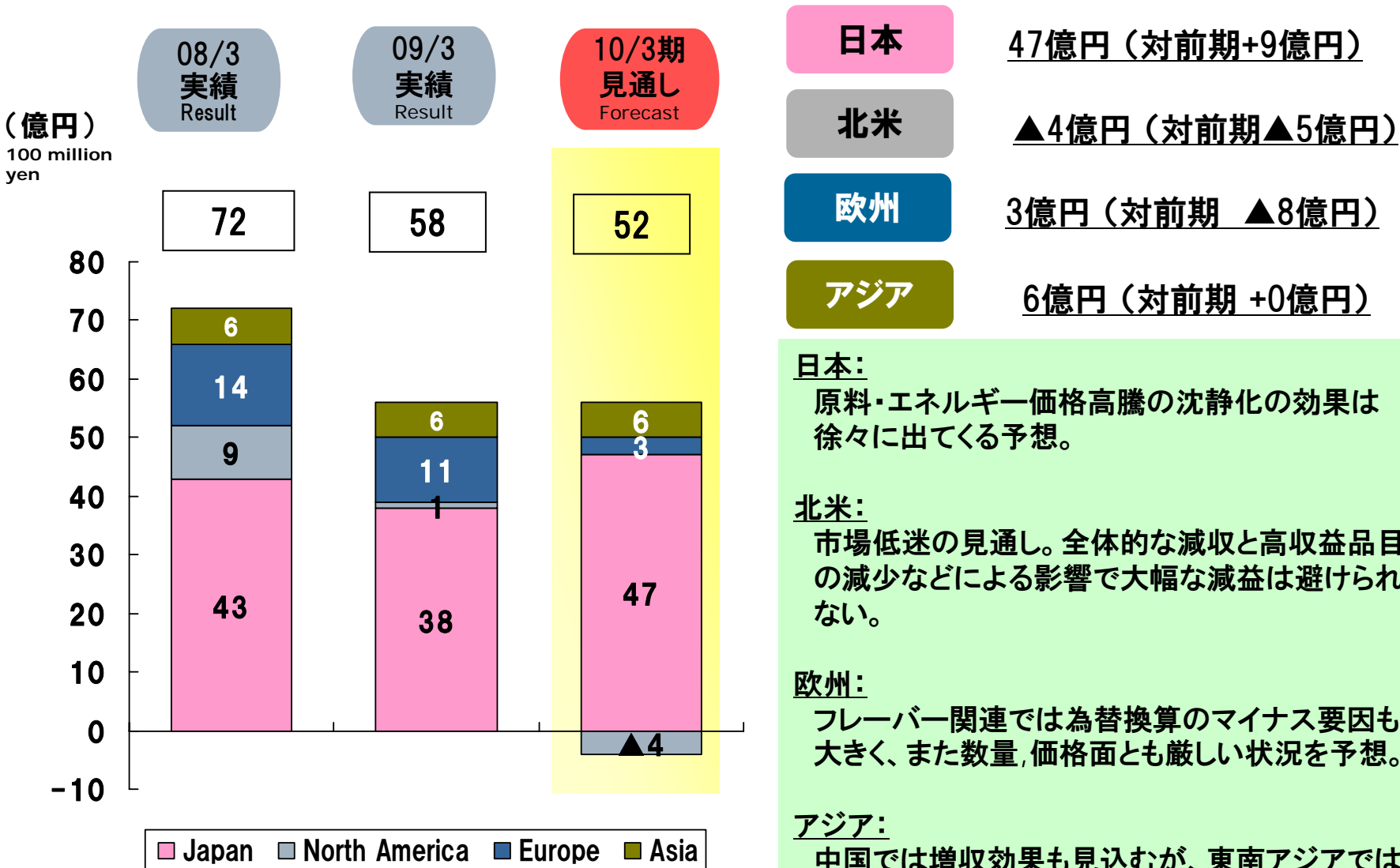
日本:
香料需要全般で低迷を予想。
ファインケミカルの医薬中間体も減収見通し。

北米:
為替要因(▲16億円)除けば増収。
フレグランス事業買収の加算効果の一方で
フレーバーは米国経済減速の影響が残る。

欧州:
為替要因が▲35億円と大きいですが、現地通貨ベースでも若干の減収となる。足元鈍化しているマルチナショナル顧客向け売上やファインフレグランス向けの回復は非常に厳しい見通し。

アジア:
東南アジア向けは前期ほどの伸張は期待できないが、中国は引き続き20%以上の増収を見込む。

(4) 地域別営業利益 見通し



- 日本** 47億円 (対前期+9億円)
- 北米** ▲4億円 (対前期▲5億円)
- 欧州** 3億円 (対前期 ▲8億円)
- アジア** 6億円 (対前期 +0億円)

日本:
原料・エネルギー価格高騰の沈静化の効果は徐々に出てくる予想。

北米:
市場低迷の見通し。全体的な減収と高収益品目の減少などによる影響で大幅な減益は避けられない。

欧州:
フレーバー関連では為替換算のマイナス要因も大きく、また数量、価格面とも厳しい状況を予想。

アジア:
中国では増収効果も見込むが、東南アジアでは前期ほどの伸びは期待できない。

(5) 設備投資計画とキャッシュフロー

(単位:億円)

Unit: 100 million yen

	08/3 実績 Result	09/3 実績 Result	10/3 見通し Forecast
I.内部留保	89	75	70
税引後利益	52	35	26
社外流出(利益処分)	▲ 8	▲ 9	▲ 8
減価償却費	45	49	52
II.設備投資等	▲ 65	▲ 93	▲ 70
III.運転資金増減 その他	▲ 55	6	▲ 12
フリーキャッシュフロー-(I + II + III)	▲ 31	▲ 12	▲ 12
IV.財務キャッシュフロー	18	44	▲ 5
有利子負債の増減	18	44	▲ 5
キャッシュフロー計(I + II + III + IV)	▲ 13	32	▲ 17
V.現金同等物の期末残高	75	107	90

【09/3期 投資約93億円 内訳】

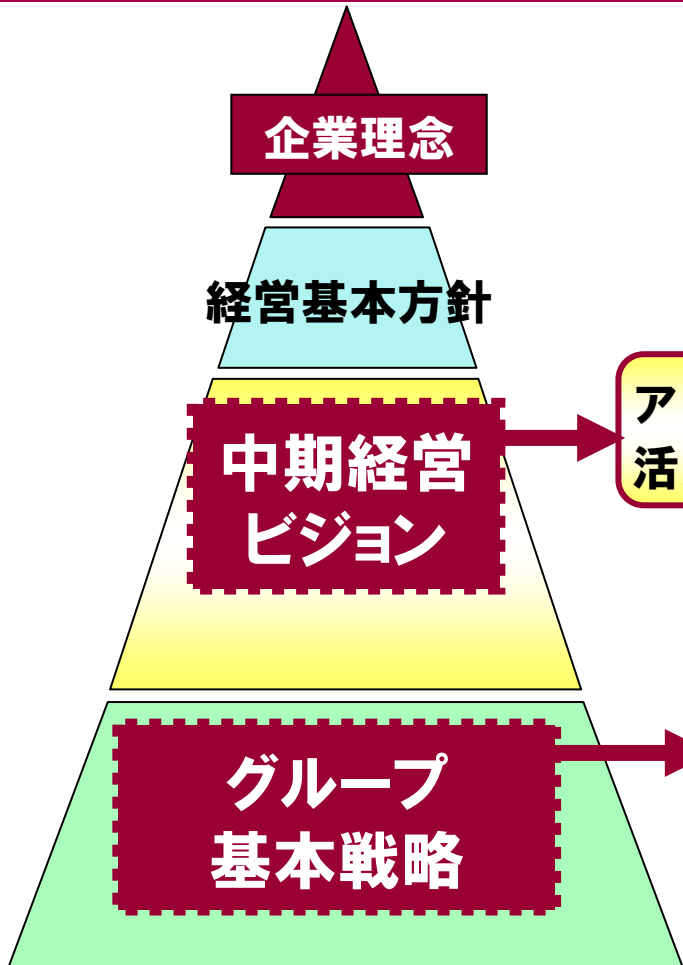
- メントール工場の増設(一部支出)
- ウェッセル・フレグランス社買収
- 欧州の研究所拡張工事
- 茶系設備への投資 ……他

【10/3期 投資見通し約70億円】 主な内訳

- 中国広州工場2期工事
- ダンカフェ マレーシア拡張投資
- メントール工場の増設
- 基幹システムの開発(前期から繰越)
……他

新中期経営計画(GP-1)の目標

GP-1 中期経営ビジョンと基本戦略



アジアで唯一グローバル化した香料会社である特性を活かし、アジアトップクラスを目指す体制整備を図る

① アジア強化

グループ全社挙げてアジア強化を図る

② 世界トップレベル人材開発のための基盤づくり

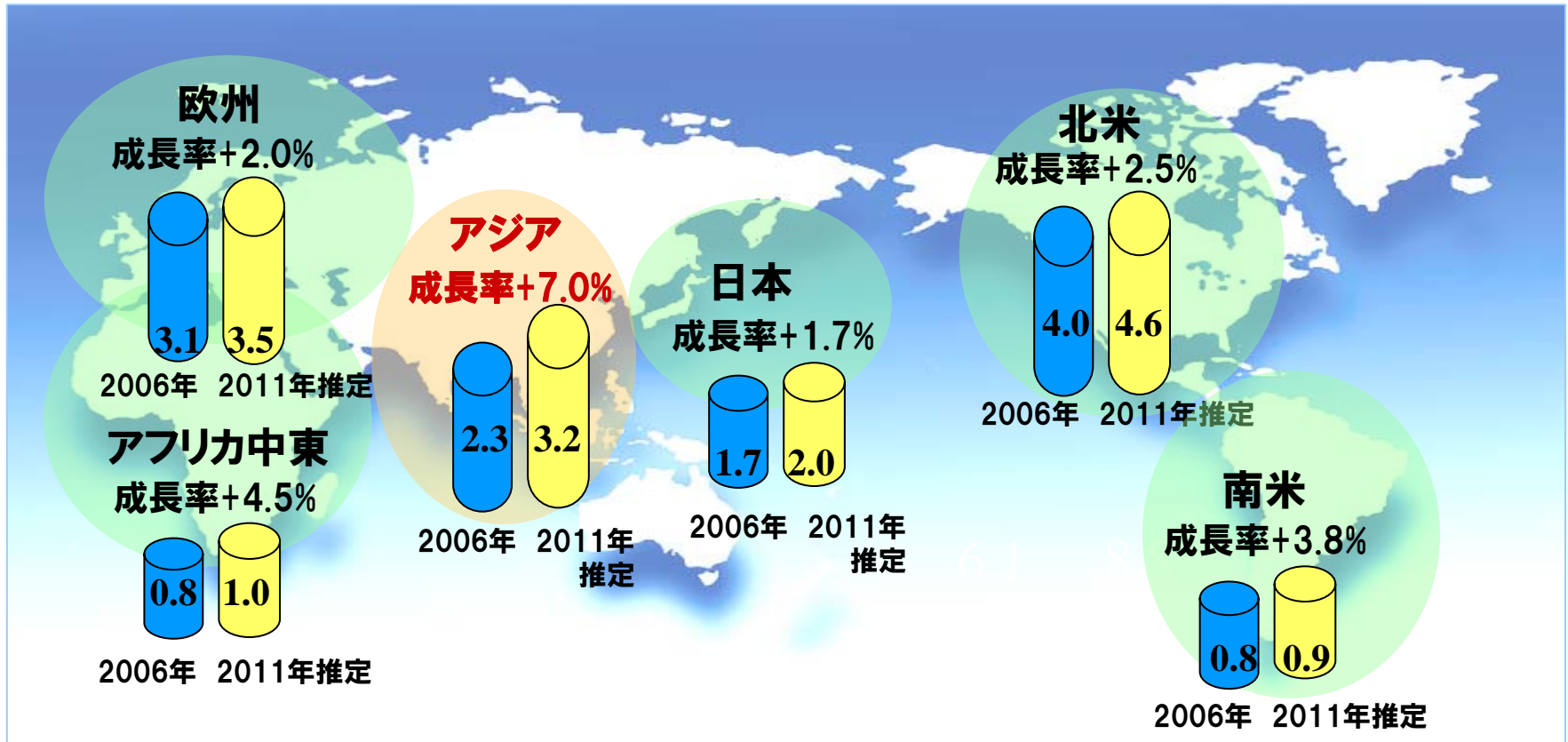
③ 環境対応強化(EHS宣言に基づく環境対策)

④ 顧客対応の充実

GP-1 市場分析

Flavor & Fragrance 市場の成長性

(単位：千億円)



(注) データは当社推定値

【現状】

- ◆マルチナショナル企業は「中国」をアジア及びBRICS向けの中心拠点とし集中的に投資
- ◆日系, 韓国, 台湾企業のアジア展開における香料会社への期待も高い
- ◆拡大する中国・アジア市場ではローカル企業との取引拡大も非常に重要



当社の優位性は高砂製品の品質、日本で培ったきめ細かい対応力、アジアの嗜好の知見
アジアでの評価⇒グローバルレベルでの評価⇒欧米での競争力向上

GP-1 数値目標

	09/3期	12/3期 GP-1目標	増減
売上高	1,240億円	1,320億円	80億円
営業利益	58億円	73億円	15億円
当期純利益	35億円	42億円	7億円
ROE	6.6%	7.0%	(+0.4%)
売上高 営業利益率	4.6%	5.5%	(+0.9%)
1株あたり利益	35円	42円	(+7円)

【経済環境】

現時点での厳しい経済環境を考慮しつつ、来年度には事業環境の回復基調が見え、最終年度までには十分な成長軌道に戻る事を前提。

【売上】

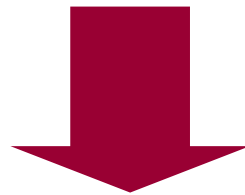
為替前提(為替マイナス要因で約▲80億円)

US\$ 09/3期 @103.5円→12/3期@95円

Euro 09/3期 @152.4円→12/3期@120円

GP-1の先に目指すもの

世界トップクラスの香料会社へ



企業価値の向上を目指す

本日は、ありがとうございました。

Thank you very much.

※注意事項

本資料は、2009年5月18日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

問合せ先： 取締役 管理・企画開発本部長 松本 裕幸

TEL: 03-5744-0523 FAX: 03-3730-6678

<http://www.takasago-i.co.jp>

E-mail: ir@takasago.com